44 クレーン仕様取り扱い注意書

ご使用にあたって

ほとんどの事故は、基本的な安全規則を守らない運転、点検、整備で発生しています。車両の運転や操作を行う前には、必ず車両に搭載されている取扱説明書を熟読されてから、安全にご使用下さい。

作業前にご注意を

【安全な服装】

作業を行う際は、作業に合った服を着用のうえ、保護帽や安全靴を必ず着用して下さい。

作業環境によっては、保護眼鏡、防塵マスク、防音具、革手袋、安全帯などの保護具を着用して下さい。

【作業開始前点検】

作業を行う前には機体や安全装置、吊りフックやワイヤロープ、各ロック類の作業開始前点検を必ず行ってください。

作業開始前点検に関する原紙をご希望の方は当社までお気軽にお問い合わせ下さい。

【運転室内のご注意】

・運手室に入る前には、靴底の泥や油脂類を除去してから搭乗して下さい。付着したまま操作を行うと足が滑り思わぬ事故を引き起こす危険性があります。
・運転席周辺には工具や空き缶などを放置しないで下さい。ペダルの下に入り込んだ場合、思わぬ事故を引き起こす危険性があります。
・運転席は運転者の体格や作業内容に合わせて調整を行ってください。正しく調整をしていない場合、とっさの場合、回避行動がとれずに思わぬ事故を引き起こす危険性があります。
・機体が転倒すると、キャブ内で強打されたり機体の下敷きになることがあるので、必ずシートベルトを着用して下さい。

【操作上のご注意】

機械を動かすとき、機械の周辺には常に危険が存在すると考えて運転してください。

【エンジン始動に関するご注意】

・操作レバーが中立になっているか、安全レバーが保持されているかを確認してください。

必ず運転席に着座をしてエンジンを始動してください。運転席以外での始動は万が一に衣類などが操作レバーに引っかかった際、機械が動き出し大変危険です。

【運転者以外の搭乗禁止】

・運転者以外の搭乗者は、障害物にぶつかったり機械から投げ出されることがあり大変危険です。また運転者の視界を妨げる恐れもありますので、絶対に行わないようにしてください。

【クレーン使用時のご注意】

・路肩作業の際は、地盤の崩壊などにより機械が転倒し、重大事故につながる危険性があります。作業を行う前には予め地形、地質の状態を調査・確認を行ってください。
・足場の状態が悪いときは、足場を安定させてから作業を開始してください
・作業にあった機械を用いてください
・作業範囲や旋回範囲、また移動範囲内には人が立ち入らないよう措置を行ってください。
・吊荷を地切る時は、静かに操作を行ってください。また、１０ｃｍほど巻き上げた後、一旦停止させてブレーキの利き、及び機体の安全を確認してください
・横引き、引き込みは行わないで下さい
・走行吊りは、定格総荷重の荷重内で作業を行ってください
・凍った地盤ではスリップをしたり、気温上昇とともに地盤が軟弱となり危険な状態となる場合があります

【走行時のご注意】

・走行方向を確認してください。走行は、油圧モーターが付いている側が後部となります。
・傾斜地を走行する場合はスリップや転倒の恐れがあります。走行する場合は、安全範囲内にて行ってください。
・機体が滑ったり不安定になった場合は、すぐに走行停止してください。
・視界が悪い場合は、合図・誘導者をおいて下さい。

作業終了時のご注意

【安全駐車】

・機械が逸走しないように、平たんで堅固な場所に止めてください
・地面にバケットなどの作業装置を接地してください
・オートアイドル・オートアクセル採用機は、選択スイッチをOFFにして下さい。再稼動時の際、不意にエンジン回転が上昇し大変危険です。
・ローアイドル運転で約５分間の冷機運転を行ってください
・アクセルはアイドリング状態に保持をして、エンジンを切って下さい
・ロックレバーを必ずロック位置にして下さい
・機体から離れる際は、各部のロックを行って盗難防止に努めてください

作業時のご注意

【送電線にご注意下さい】

・送電線に接近すると感電する場合があります。ジブは送電線から最低でも下表の距離以上離してください。

送電線との離隔距離

送電線の電圧	安全な距離
低　圧	1m以上
高　圧	1.2m以上
特別高圧（6万V未満）	2m以上
66000V	4m以上
187000V	6m以上
500000V	11m以上

・なお、実作業においては送電線のガイシの数により、下表に示す距離を保ち、十分な安全作業を行ってください。また、このような場所での作業の場合は、事前に所轄電力会社にご連絡下さい。

実作業時用早見表

がしの数	電線との距離
2～4個	3m
5～8個	4m
10～14個	5m
17～24個	7m

・放送局などからの強力な電波によりフックが帯電する場合があります。アースをとり、電気を逃がしてから玉掛け作業を行ってください。
・クレーンジブのような長尺物は、落雷の危険があります。雷発生時には作業を中止し、吊り荷を地面に下ろし、安全な場所へ避難してください。
・強風の場合は、作業に気をつけてください。風速10m／秒以上の場合、安全のため作業を休止してください（風速とは地上高10mにおける10分間の平均値です）
・風速は上空ほど大きくなります。したがってジブが長い場合とか、荷を高く吊上げる場合は注意してください
・プレハブ板などのように風圧を受けやすい荷を吊っている場合は、ジブ後方からの風圧は危険です。ご注意下さい
・荷を吊っていない場合は前方からの風によりジブがあおられる事があり危険です。ご注意下さい。
・風速が10m～15mの時は、安全のため作業を中断し、次の順序で処置してください

【テレスコピッククレーンの場合】

1.旋回体をクローラ進行方向に向け、機械背面に風が当たるようにします
2.巻上げロープでアンカーをとる
3.エンジンを停止する
4.安全な場所へ避難してください

【クレーン仕様掘削機の場合】

1.地面にバケットなどの作業装置を接地してください
2.オートアイドル・オートアクセル採用機は、選択スイッチをOFFにして下さい。
3.アクセルはアイドリング状態に保持をして、エンジンを切って下さい
4.ロックレバーを必ずロック位置にして下さい
5.安全な場所へ避難してください

・風速が15m以上の場合は、ジブを最も縮め、なおかつ下まで下げてください。どうしても下げられない場合は、風速が10m～15mの時と同じ処置を行ってください。

風速の目安

地上10mの風速（m／秒）	名　称	風力		陸　上　の　状　態
0～0.5	静　穏	0		煙が真っ直ぐに上がる
0.6～1.7	至　軽　風	1		風向きが煙のなびきかたで分かる
1.8～3.3	軽　風	2		顔に風を感じ、木の葉が向く
3.4～5.2	軟　風	3		葉や小枝が絶えず動き、軽い旗が開く
5.3～7.4	和　風	4		砂にホコリが立ち、紙片が舞い上がる
7.5～9.8	疾　風	5		葉のある低木が揺れ始め、水面に波頭が立つ
9.9～12.4	雄　風	6		大枝が動き、電線が鳴る。傘がさしにくい
12.5～15.2	強　風	7		木の全体が揺れ、風に向かって歩きにくい
15.3～18.2	疾　強　風	8	台風	小枝が折れる。風に向かって歩けない
18.3～21.5	大　強　風	9		人家に煙突が折れたり瓦が飛ぶなどの被害が出る
21.6～25.1	全　強　風	10		木が根こそぎ抜けたり人家に大損害が起こる
25.2～29	暴　風	11		めったに発生しない。広範囲の破壊を伴う
29.1～	激　風	12		

詳細につきましては取り扱い説明書を熟読され、安全な作業を行われますようご案内申し上げます。